

高大間の教育協定の例(中高一貫校を含む)

高校等と教育協定を結び、特徴的な取り組みを行っている大学を編集部でピックアップした。
(2023年2月時点)

	高崎商科大学	神田外語大学	成城大学	東京女子大学	東洋大学	法政大学	龍谷大学
大学	群馬県高崎市 / 入学定員：200人 / 学部：商	千葉県千葉市 / 入学定員：921人 / 学部：外国語、グローバル・リベラルアーツ	東京都世田谷区 / 入学定員：1,215人 / 学部：経済、文芸、法、社会イノベーション	東京都杉並区 / 入学定員：890人 / 学部：現代教養	東京都文京区・北区、埼玉県川越市・朝霞市、群馬県板倉町 / 入学定員：7,206人 / 学部：文、経済、経営、法、社会、国際、国際観光、国際地域、情報連携、ライフデザイン、理工、総合情報、生命科学、食環境科学	東京都千代田区・町田市・小金井市 / 入学定員：6,605人 / 学部：法、文、経営、国際文化、人間環境、キャリアデザイン、デザイン工、グローバル教養、経済、社会、現代福祉、スポーツ健康、情報科、理工、生命科	京都市伏見区、滋賀県大津市 / 入学定員：4,982人 / 学部：文、経済、経営、法、政策、国際、社会、農、先端理工
協定校	Haul-Aプロジェクト：47校 上記のうちSAH(スーパー・アカウンティング・ハイスクール)指定：12校 【北海道】北海道函館商業高校、北海道札幌東商業高校 【青森】県立三沢商業高校 【山形】県立酒田光陵高校 【岐阜】県立岐阜商業高校、県立大垣商業高校、県立土岐商業高校、関市立関商工高校 【岡山】県立岡山東商業高校 【山口】下関商業高校 【福岡】北九州市立高校 【鹿児島】鹿児島商業高校	▶教育連携校： 【千葉】渋谷教育学園幕張高校、市川中学・高校、東邦大学付属東邦中学・高校、昭和学院秀英高校、芝浦工業大学柏高校、国府台女子学院中学部・高等部、和洋国府台女子中学・高校 【東京】実践学園中学・高校 ▶高大連携協定校： 【千葉】八千代松陰高校、翔凌高校 【東京】東京女子学園高校、関東国際高校、日本女子体育大学附属二階堂高校、神田女子園中学・高校、都立白鷗高校附属中学校	【北海道】北海高校 【埼玉】西武学園文理高校 【東京】麹町学園女子中学・高校、佼成学園女子中学・高校、芝浦工業大学附属中学・高校、明星学園高校、和洋九段女子中学・高校 【神奈川】県立岸根高等学校、北鎌倉女子学園中学・高校、横浜女子学院中学・高校	【東京】恵泉女子学園中学・高校、麹町学園女子中学・高校、女子聖学院中学・高校、玉川聖学院中等部・高等部、東京純心女子中学・高校、桐朋女子中学・高校 【千葉】国府台女子学院中学部・高等部 【神奈川】捜真女学校中学部・高等部、横浜女子学院中学・高校	【東京】麹町学園女子中学・高校 【埼玉】叡明高校	【東京】三輪学園高校	▶教育連携校：北陸高校、崇徳高校、神戸龍谷高校、相愛高校 ▶高大連携協定校： 【滋賀】<県立>米原高校、甲西高校、草津東高校、玉川高校 <私立>近江兄弟社高校、光泉カトリック高校、比叡山高校 【京都】<府立>寛道高校、桃山高校、山城高校、桂高校、北嵯峨高校、城南菱創高校、西城陽高校、洛西高校<市立>京都奏和高校 <私立>大谷高校、京都橋高校、花園高校 【大阪】<府立>いちりつ高校、香里丘高校、枚方高校、牧野高校、山田高校 <私立>上宮高校、大阪学芸高校、上宮太子高校、大阪青凌高校、金光大阪高校【奈良】<私立>奈良育英高校
協定内容	▶Haul-Aプロジェクト：日商簿記1級取得を支援。Web講義動画と使用テキストを無償提供。全国統一模擬試験実施、夏合宿を実施 ▶SAH：先進的な卓越した取り組みを実施している高校を指定し、全面的にバックアップ。Haul-Aプロジェクト支援に加え、現役公認会計士を講師として派遣。簿記会計に関するキャリア教育や、指導力向上の機会の提供などを行う	▶教育連携校：ウェルビーイング探究講座、グローバル・イシュー探究講座、Global Englishes in the 21st century等異文化理解や地域研究をテーマとした教育連携プログラムの実施 ▶高大連携協定校：英語学習支援のための自立学習施設SALC(サルク)の導入、オンラインによる総合学習指導、State University of New Yorkの海外短期研修実施(予定)等	▶大学講座や行事への高校生の受け入れ ▶大学教員による訪問特別講義 ▶入学準備プログラム「大学生生活スタートアップセミナー」を開催し、チームワークを体験できるワークを実施 ▶学生サポーターによる「サポーターズフォーラム」 [®] の高大連携分科会への参加機会を提供 ▶大学図書館にて図書館学習を実施	本学の教育理念・目的との親和性が高く、特徴的な教育を実践している高校と、連携活動を実施(年度・協定校により異なる) ▶高校での出張授業、ワークショップ、生徒・保護者向け講演会、進学説明会 ▶大学見学会、授業の聴講、学内講演会への招待、大学図書館の利用 ▶定期的な相互連絡・情報交換	▶【麹町学園女子中学・高校】東洋大学グローバルコース：高校で高大連携を推進するクラス。生徒に対し、大学見学、模擬講義、学部学科説明会等の教育交流活動を実施。英語教育、グローバル教育、キャリア教育に加え、東洋大学の教育への理解を深める ▶【叡明高校】生命科学部・食環境科学部対象。大学見学、模擬講義、模擬実験等の実施	▶特別聴講制度による単位認定。2023年度の対象は全学共通科目「数理・データサイエンス・AI教育プログラム(略称：MDAP)」 ▶高校教員と大学教員によるオムニバスの高大連携講座「現代の諸問題について考える(大学の学びにふれる)」全12回	▶教育連携校：教育プログラムの提供、推薦入試制度による受け入れ ▶高大連携協定校：学習機会(進路ガイダンス・模擬講義・大学見学会等)の提供 大学生との交流は進路学習の効果も期待できるため、高大連携サポーターやアドミッションサポーターなどの学生スタッフも起用。また、「総合的な探究の時間」に大学教員の派遣など、高校の特色づくりも支援
入試への活用	▶Haul-A特待生推薦入試(I種・II種) I種：入学料および4年間の授業料全額免除、II種：入学料および4年間の授業料半額免除 ※2023年度入学者	▶高大連携校協定特別入試(関東国際高校)：高校(3年)+大学(4年)の一貫教育で英語と東南アジア言語に精通したグローバル人材を輩出するプログラム	▶学校推薦型選抜(指定校制)：協定校は推薦枠を増設	▶学校推薦型選抜(高大連携型)制度<一部の協定校>：資格条件を満たす生徒は原則として進学可能(出願人数制限あり)	▶協定校推薦入試：【麹町】推薦基準を満たしていれば、東洋大学の13学部36学科のいずれかに進学可能 【叡明】生命科学部・食環境科学部対象。一定の基準を満たした生徒を受け入れる	▶協定校推薦(学校推薦型選抜)入試：推薦基準を満たしていれば、生徒の希望に応じ、全15学部38学科へ進学可能(ただし、一部対象外あり)	▶教育連携校推薦入試：合格通知後、「教育連携校オリエンテーション」「教育連携校学習課題」等を実施 ▶指定校(高大連携協定校)推薦入試
入学後の成果	▶公認会計士になり地域や企業に貢献したいなど、志の高い生徒が多く、互いに切磋琢磨し、成長できる環境になっている ▶公認会計士のOBが講師として指導	▶教育連携プログラム等を通して本学の建学の理念や教育内容、教授陣や学習環境を熟知しているため、入学直後から授業や課外活動に積極的に取り組んでいる	▶高大連携協定で受け入れた学生は、各方面(学業、課外活動)で活躍し、成果を挙げている	▶あらかじめ本学の建学の理念・教育目標等を十分理解しているため、初年度から授業・学生生活に積極的に取り組んでいる学生が多い。こうした学習意欲の高さが、大学全体の活性化につながる」と期待される	▶【麹町】スーパーグローバル大学として求める高い英語力を持った学生が入学。また、大学や学部・学科への十分な理解のもと、高い学習意欲を持って入学に至るため、入学後のミスマッチを防いでいる ▶【叡明】指定校推薦は2023年度入学者から	▶協定校推薦による受け入れ開始は2024年度入学者から。高大連携講座やMDAP特別聴講制度にて大学の学びに触れることによる、学部選択時のミスマッチ軽減や入学後の学修意欲の継続・向上を意図している	▶各種連携プログラムの実施により学習意欲を高めるとともにミスマッチを防いでいる。また、学部独自の入学前学習プログラムで、大学入学後の学びへスムーズに移行。基礎ゼミ等においてリーダー的役割を担うことが期待されている

*5分野の学生サポーター団体(学習支援、国際交流、キャリア支援、ライブラリー、バリアフリー)の合同イベント

近年、特定の高校と教育協定を結ぶ大学が増えている。自学の教育理念に合う学生を入学前から高校と連携して育成する、いわば指定校推薦と付属校・系列校の間にあるような制度といえよう。昨今の教育協定について、いくつかの大学を調べてみた。

龍谷大学には、建学の精神の基盤が共通する教育連携校のほか、公立高校を含む30校の高大連携協定校がある。大学生活をイメージしやすいよう、ガイダンスなどに学生の協力を得ているのが特徴だ。成城大学も、学内で活躍する学生サポーター団体のイベントへの参加機会を提供している。

特定の教育内容に踏み込んで、高校生の学習を支援する大学もある。高崎商科大学は、全国の商業高校を中心に47校と協定を締結。会計学のノウハウを生かし、高校では実施が難しい日商簿記検定1級取得のための学習コンテンツを提供する。基準を満たした生徒は特待生として受け入れられる。志の高い学生が全国から集まり、切磋琢磨する環境になっているという。

神田外語大学は、グローバル人材育成をめざす高校と協定を結び、自学の海外協定校における短期語学研修のほか、各校に応じた連携プログラムも設ける。

法政大学は、三輪学園高校の生徒に、特別聴講制度にて単位認定を行うほか、全12回の高大連携講座を実施する。東洋大学は、麹町学園女子高校に自学の名を冠したグローバルコースを設置。生徒は、定期的に東洋大学の模擬授業等を受ける。本コース生徒の約70%が東洋大学に入学するという。

東京女子大学では、主に、自学と親和性の高い教育に取り組む私立女子校と協定を結ぶ。協定校の入学者は学習意欲が高い傾向にあり、大学全体の活性化にもつながると期待している。

協定を締結すれば、継続的な取り組みがしやすくなり、自学に合う学生の育成と確保が見込める。一方で、協定校数を拡大し過ぎると、大学側の負担が重くなり、事業の質の低下につながりかねない。早くから協定校制度を導入した大学の中には、指定校推薦と差がなくなつたために、制度を見直すところもある。教育ビジョンが合う高校を精選したうえで、生徒の育成を主眼に置く協定を締結し、生徒の意欲的な進路決定や大学のブランディングにつなげてほしい。

教育協定の現状と課題

生徒・学生の育成目的を明確にすることが鍵